

中小企業景況調査報告書

2024年 10月～12月期 実績

(2025年 1月～3月期 予測)

調査実施時点 : 2024年11月15日

京都府商工会連合会

《 目 次 》

1. 中小企業景況調査の概要	2 頁
2. 京都府内商工会地域産業の景況【総括】	3 ~ 4 頁
3. 各業種の景況	
(1) 製造業の景況	5 ~ 6 頁
(2) 建設業の景況	7 ~ 8 頁
(3) 小売業の景況	9 ~ 10 頁
(4) サービス業の景況	11 ~ 12 頁

D・I とは (景気動向指数)

この報告書の中で用いている「**D・I 指数**」とは、ディフュージョン・インデックスの略で、企業経営者の景気の波及度合いを表す指標として、利用されています。

《算出方法》

前年同期に比べて、

$$\frac{\text{『増加』回答企業の割合}}{\text{(上昇・好転等)}} - \frac{\text{『減少』回答企業の割合}}{\text{(低下・悪化等)}} = \text{D・I}$$

D・I が、**プラス (+)** 値 …… 強気 (楽観) を表す。

D・I が、**マイナス (-)** 値 …… 弱気 (悲観) を表す。

例えば、売上が前年同期比で、

『増加』回答企業 50%、『不変』回答企業 30%、『減少』回答企業 20% の場合、

$$\text{D・I 指数は、} \quad 50\% - 20\% = 30\%$$

となり、経営者の売上に対する業況観が、強気気運であることを表しています。

1. 中小企業景況調査の概要

この調査は、商工会地域の産業の状況、地域の経済動向等について、四半期毎に変化の実態等諸状況を迅速かつ的確に収集把握して、経営改善普及事業の効果的な指導資料にするために、全国商工会連合会が実施する調査に連携し、府内の状況を取りまとめたものです。

調査要領、本年度の調査対象商工会及び、調査回答企業数・対象業種別構成の内訳は次のとおりです。

(1) 調査対象期間

2024年10月～12月期を対象とした。

調査実施時点 …… 11月15日(金)

調査期間 …… 11月1日(金) ～ 11月18日(月)

(2) 調査の方法

(イ) 商工会の経営支援員の訪問による面接調査とした。

(ロ) 調査対象商工会の選定は、管内ごとの市町村人口を勘案し、又、調査対象企業の抽出は、各業種・規模等の有意抽出法とした。

(3) 調査対象商工会

京丹後市商工会、与謝野町商工会、京丹波町商工会、南丹市商工会、向日市商工会、大山崎町商工会、井手町商工会、宇治田原町商工会、八幡市商工会、木津川市商工会、和束町商工会、長岡京市商工会、京田辺市商工会、久御山町商工会、笠置町商工会、精華町商工会、南山城村商工会、京北商工会、福知山市商工会、伊根町商工会

(計20商工会)

(4) 対象業種別構成 及び 回答企業数

業種	調査対象企業数	構成比	回答企業数	回答率
製造業	36	20.0%	36	100.0%
建設業	24	13.3%	24	100.0%
小売業	53	29.4%	51	96.2%
サービス業	67	37.2%	67	100.0%
【合計】	180	100%	178	98.9%

2. 京都府内商工会地域産業の景況【総括】

<概要>

京都府内商工会地域の「売上指数」は業種別でみると製造業と建設業で緩やかに改善がみられるも、小売業とサービス業でやや悪化傾向となった。「採算指数」は小売業で改善がみられるものの、全体的に悪化傾向であった。また、経営上の問題点としては、全業種で「原材料や仕入単価の上昇」が挙げられた他、「人件費やそれ以外の経費」等、物価高騰の影響を受けた結果となった。

<業種別売上指数>

- ①全体：売上DIは▲14.6となり、前期の売上DI▲14.1と比べ▲0.5ポイントの悪化となった。
- ②製造業：売上DIは▲25.0となり、前期の売上DI▲27.8と比べ+2.8ポイントの改善となった。
- ③建設業：売上DIは▲12.5となり、前期の売上DI▲20.8と比べ+8.3ポイントの改善となった。
- ④小売業：売上DIは▲19.6となり、前期の売上DI▲14.0と比べ▲5.6ポイントの悪化となった。
- ⑤サービス業：売上DIは▲1.4となり、前期の売上DI+6.2と比べ▲7.6ポイントの悪化となった。

<業種別採算指数>

- ①全体：採算DIは▲29.0となり、前期の採算DI▲33.6と比べ+4.6ポイントと改善となった。
- ②製造業：採算DIは▲27.7となり、前期の採算DI▲38.9と比べ+11.2ポイントの改善となった。
- ③建設業：採算DIは▲25.0となり、前期の採算DI▲41.7と比べ+16.7ポイントの改善となった。
- ④小売業：採算DIは▲32.0となり、前期の採算DI▲28.6と比べ▲3.4ポイントの悪化となった。
- ⑤サービス業：採算DIは▲31.3となり、前期の採算DI▲25.0と比べ▲6.3ポイントの悪化となった。

<業種別経営上の問題点>

- ①製造業：「1位：需要の停滞」「2位：原材料価格の上昇」「3位：人件費の増加」等
- ②建設業：「1位：従業員の確保難」「2位：熟練技術者の確保難」「2位：材料価格の上昇」
- ③小売業：「1位：仕入単価の上昇」「2位：消費者ニーズの変化」「3位：購買力の他地域への流出」
- ④サービス業：「1位：材料等仕入単価の上昇」「2位：従業員の確保難」「3位：人件費以外の経費の増加」等

業種別景況指標 (景気の天気図) ※天気図は売上DI

	R5年		R6				R7
	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月(見通)
製造業							
建設業							
小売業							
サービス業							

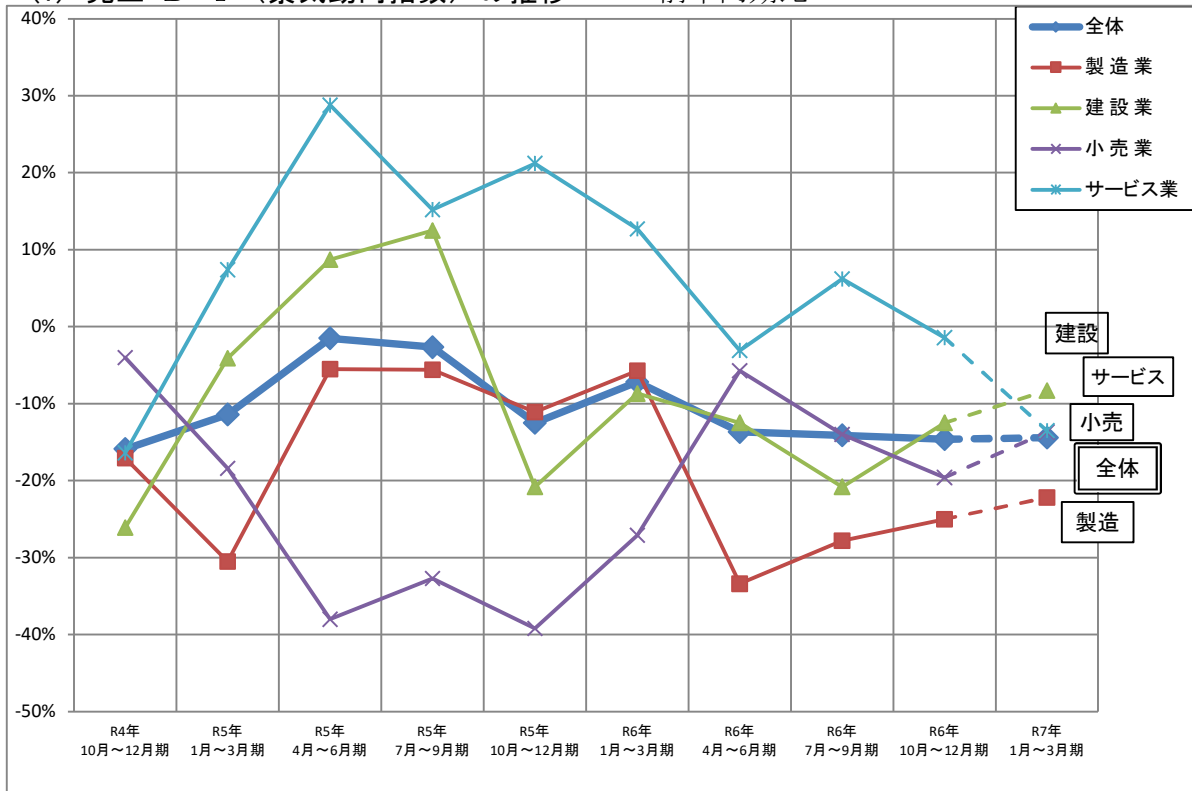
天気図のよみ方

D・I	100.0 ～50.1	50.0 ～25.1	～0.1	0.0 ～▲25.0	▲25.1 ～▲50.0	▲50.1 ～▲100.0
指標						
内容	特に好転	好転	やや好転	やや悪化	悪化	特に悪化

2. 京都府内商工会地域産業の景況【総括】

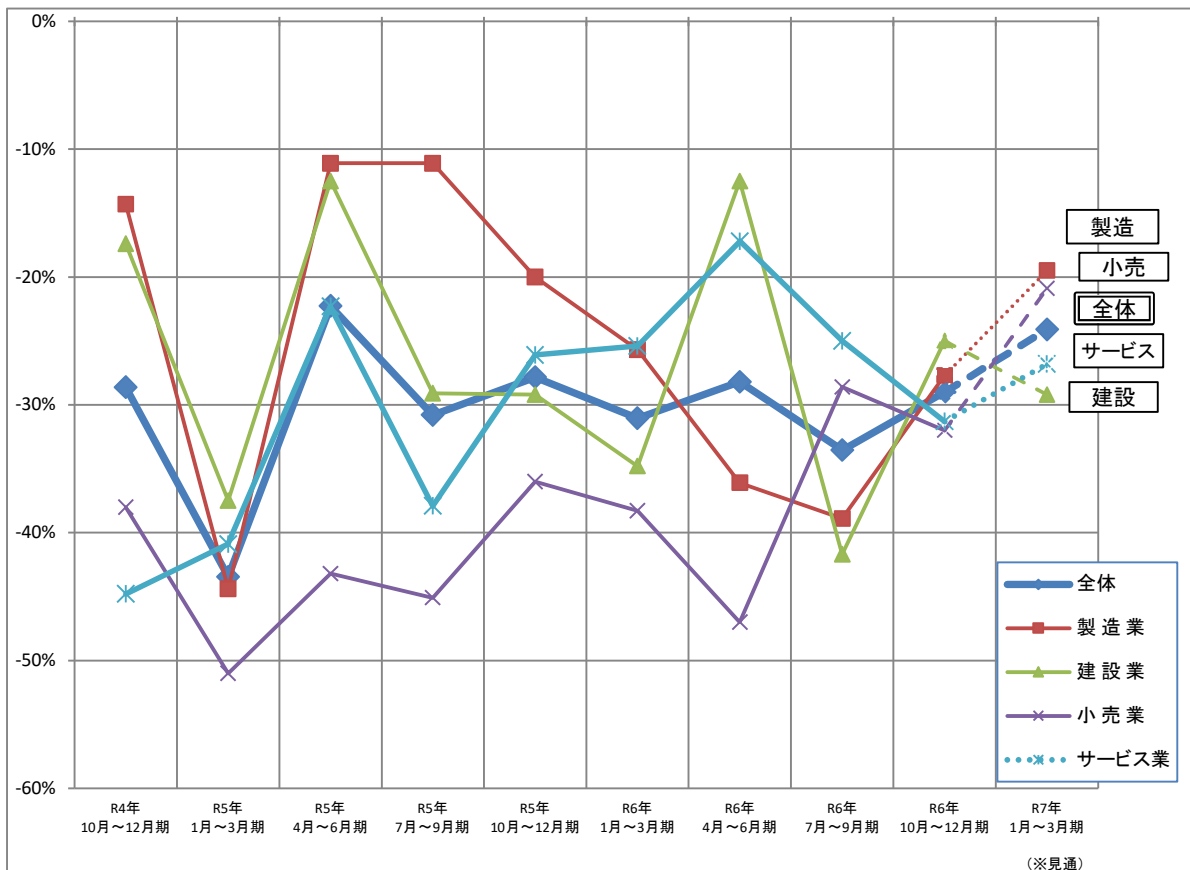
《売上と採算の推移》

(1) 売上 D・I (景気動向指数) の推移 ー前年同期比ー



(※見通)

(2) 採算 D・I (景気動向指数) の推移 ー前年同期比ー



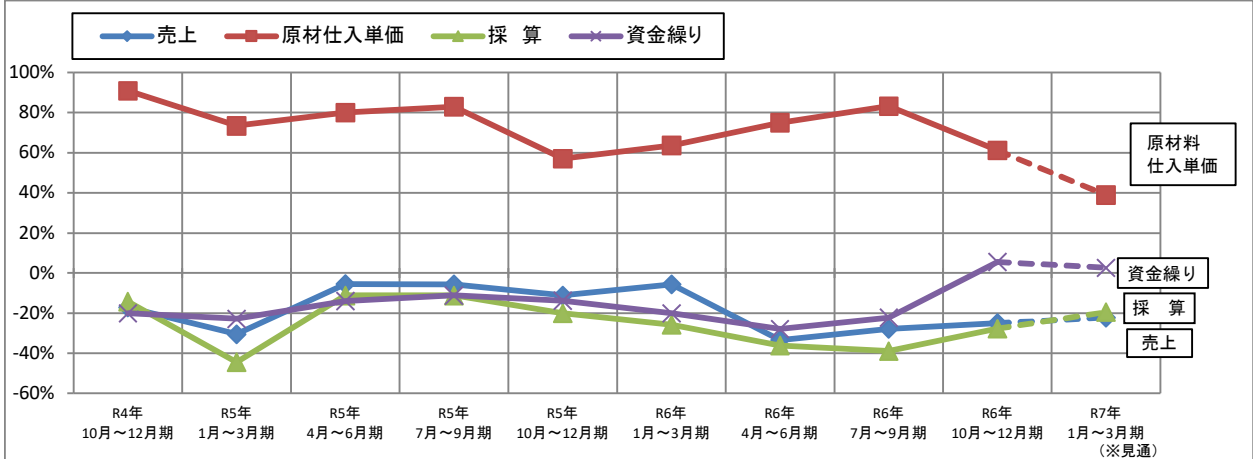
(※見通)

3. 各業種の景況

(1) 製造業

① 製造業 D・I 値 (景気動向指数)の推移 —前年同期比—

製造業	R5年		R6年				来期予測
	10月～12月期	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	
売上	▲ 11.1%	▲ 5.7%	▲ 33.4%	▲ 27.8%	▲ 25.0%	▲ 22.2%	
原材仕入単価	57.1%	63.6%	75.0%	83.3%	61.1%	38.9%	
採算	▲ 20.0%	▲ 25.7%	▲ 36.1%	▲ 38.9%	▲ 27.7%	▲ 19.5%	
資金繰り	▲ 13.8%	▲ 20.0%	▲ 27.8%	▲ 22.2%	5.5%	2.7%	



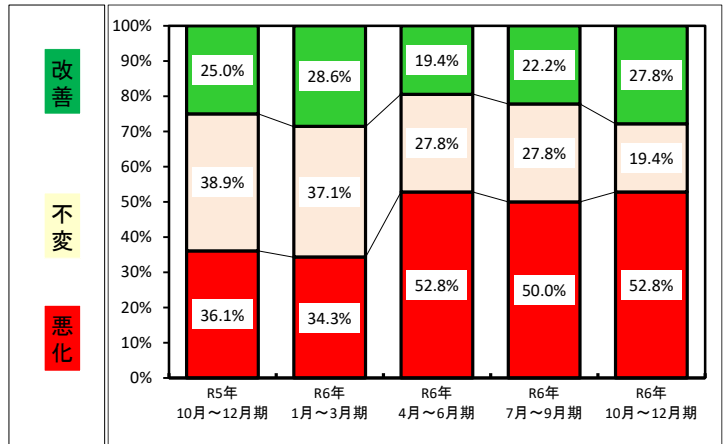
売上 …… ▲ 25.0 ポイント
(前期比 2.8 ポイント改善)

仕入単価 …… 61.1 ポイント
(前期比 22.2 ポイント改善)

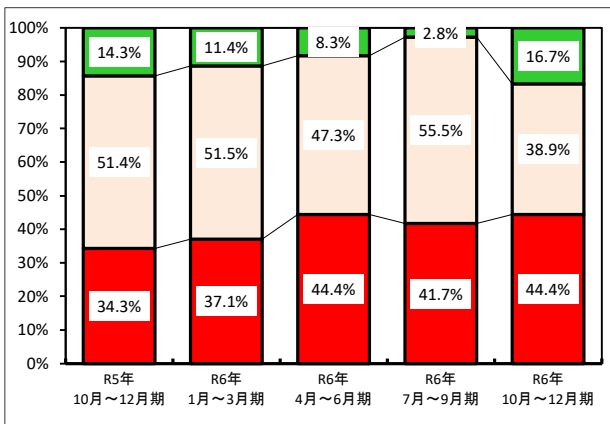
採算 …… ▲ 27.7 ポイント
(前期比 11.2 ポイント改善)

資金繰り …… 5.5 ポイント
(前期比 27.7 ポイント改善)

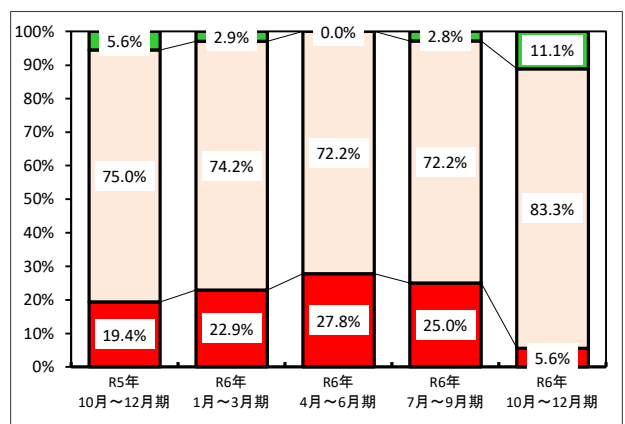
※『売上(加工)』の状況 前年同期比 (D・I 値)



※『採算』の状況 前年同期比 (D・I 値)



※『資金繰り』の状況 前年同期比 (D・I 値)



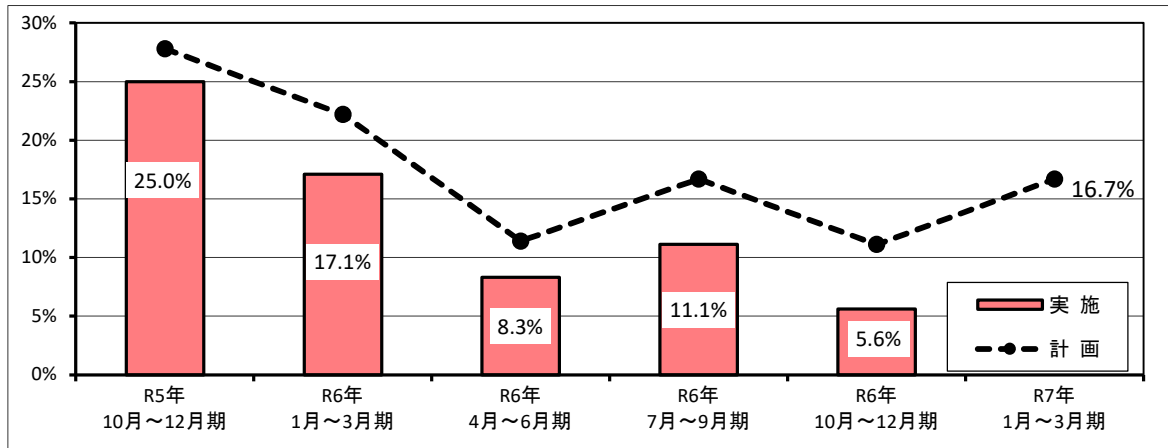
3. 各業種の景況

(1) 製造業

② 設備投資の状況（当期中に行った設備投資の実施状況と来期の実施予定を集計）

今期の設備投資の実施状況は、5.6%（前期比5.5ポイント減少）であった。

製造業	R5年	R6年				(計画) R7年
	10月～12月期	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期
土地	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
車両・運搬具	11.1%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
生産設備	66.7%	50.0%	66.7%	25.0%	100.0%	83.3%
設備投資の実施	25.0%	17.1%	8.3%	11.1%	5.6%	16.7%

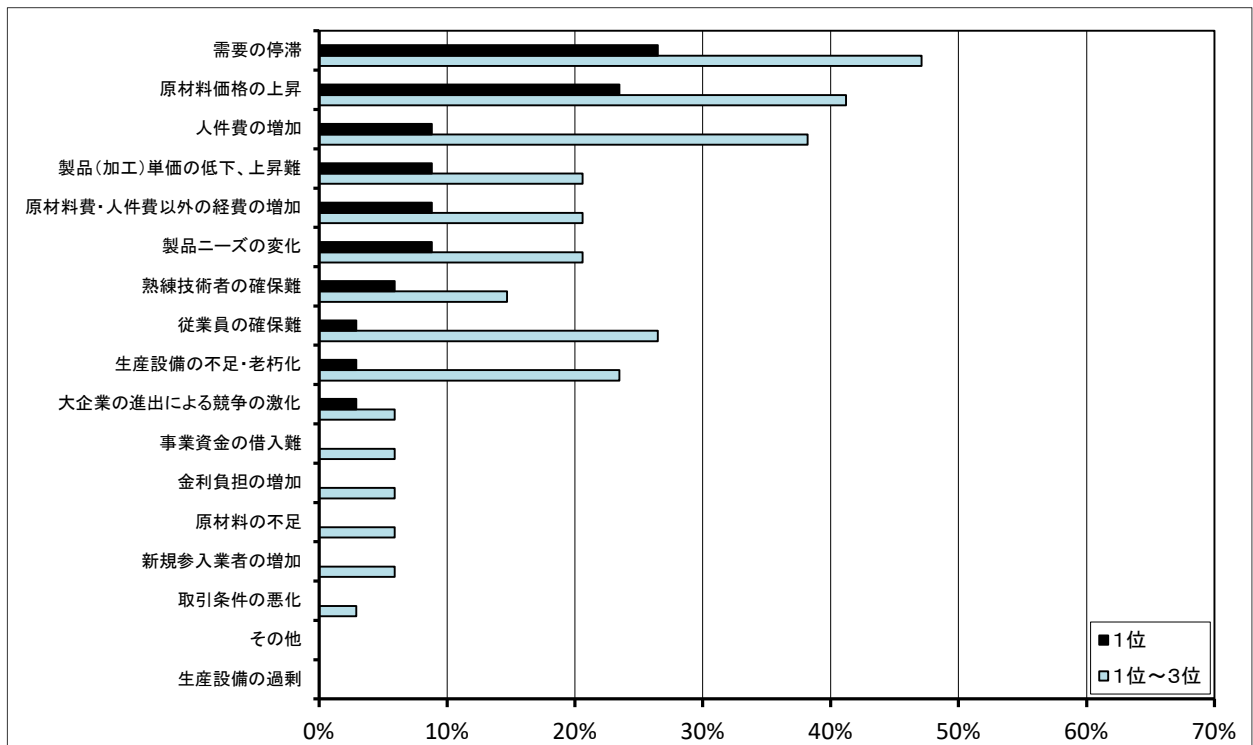


※ 計画については、調査実施時期を基準に翌期の予定を記入しているため、グラフに期の差が生じる。

③ 経営上の問題点

※ グラフ中の項目から1位～3位まで挙げられた問題点を1位及び1位～3位毎に集計を行った。

「需要の停滞」「原材料価格の上昇」「人件費の増加」等が上位となった。

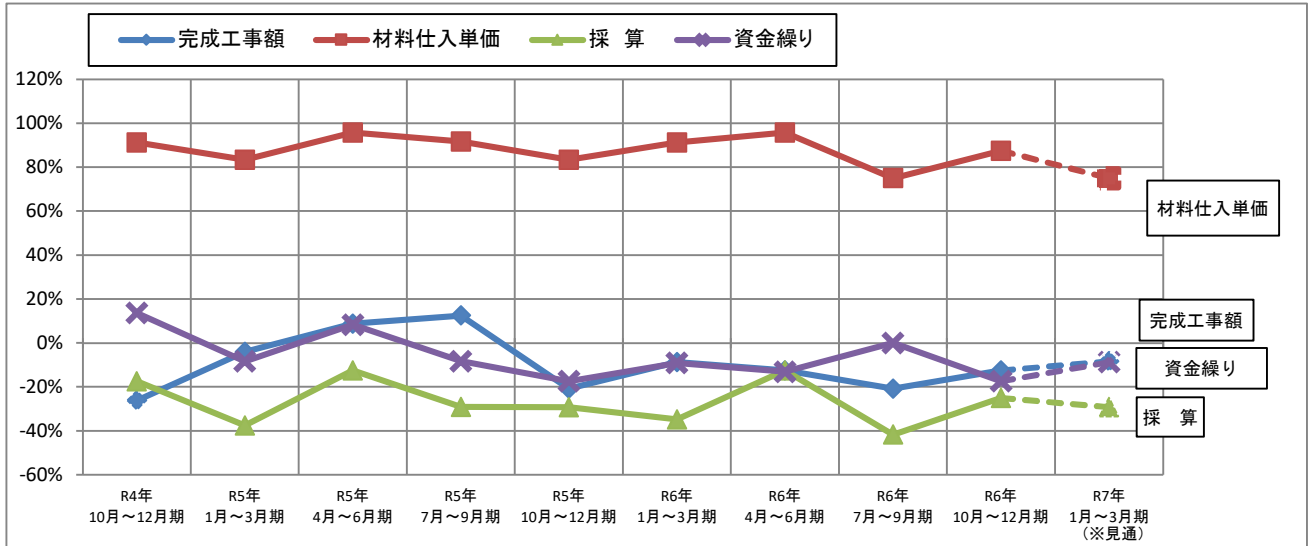


3. 各業種の景況

(2) 建設業

① 建設業 D・I 値 (景気動向指数)の推移 ー前年同期比ー

建設業	R5年					R6年					来期予測
	10月～12月期	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	10月～12月期	10月～12月期	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期
完成工事額	▲ 20.8%	▲ 8.7%	▲ 12.5%	▲ 20.8%	▲ 12.5%	▲ 8.3%					
材料仕入単価	83.3%	91.3%	95.8%	75.0%	87.5%	75.0%					
採算	▲ 29.2%	▲ 34.8%	▲ 12.5%	▲ 41.7%	▲ 25.0%	▲ 29.2%					
資金繰り	▲ 17.4%	▲ 9.1%	▲ 13.1%	0.0%	▲ 17.4%	▲ 8.7%					



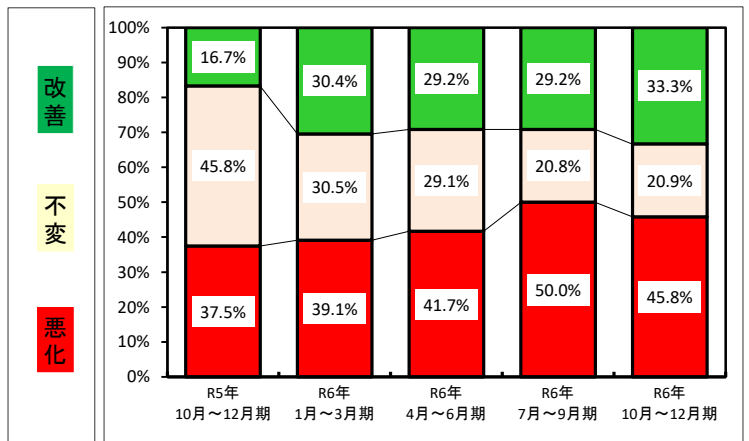
完成工事額 .. ▲ 12.5 ポイント
(前期比 8.3 ポイント改善)

仕入単価 87.5 ポイント
(前期比 12.5 ポイント悪化)

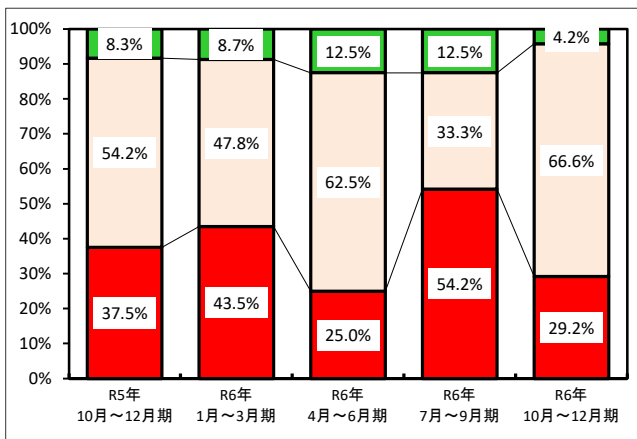
採算 ▲ 25.0 ポイント
(前期比 16.7 ポイント改善)

資金繰り ▲ 17.4 ポイント
(前期比 17.4 ポイント悪化)

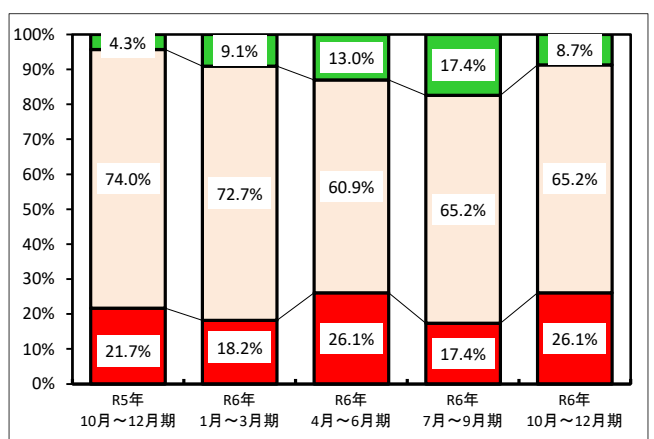
※『完成工事額』の状況 前年同期比 (D・I 値)



※『採算』の状況 前年同期比 (D・I 値)



※『資金繰り』の状況 前年同期比 (D・I 値)

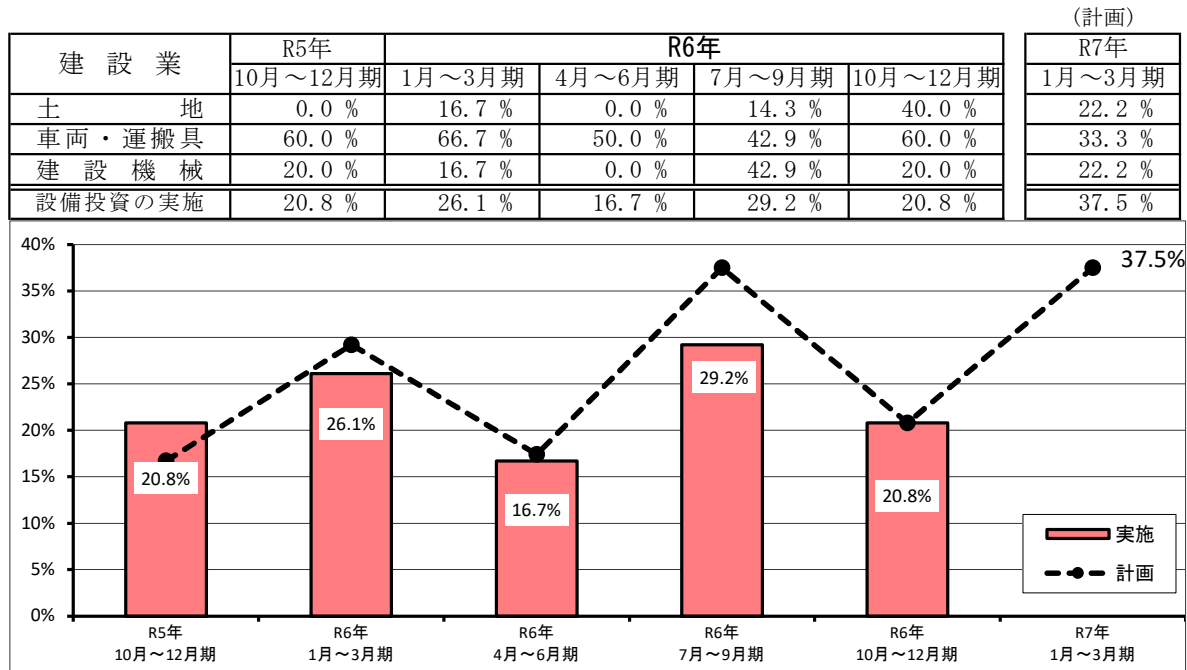


3. 各業種の景況

(2) 建設業

② 設備投資の状況(当期中に行った設備投資の実施状況と来期の実施予定を集計)

設備投資の実施状況は20.8% (前期比8.4ポイント減少) であった。

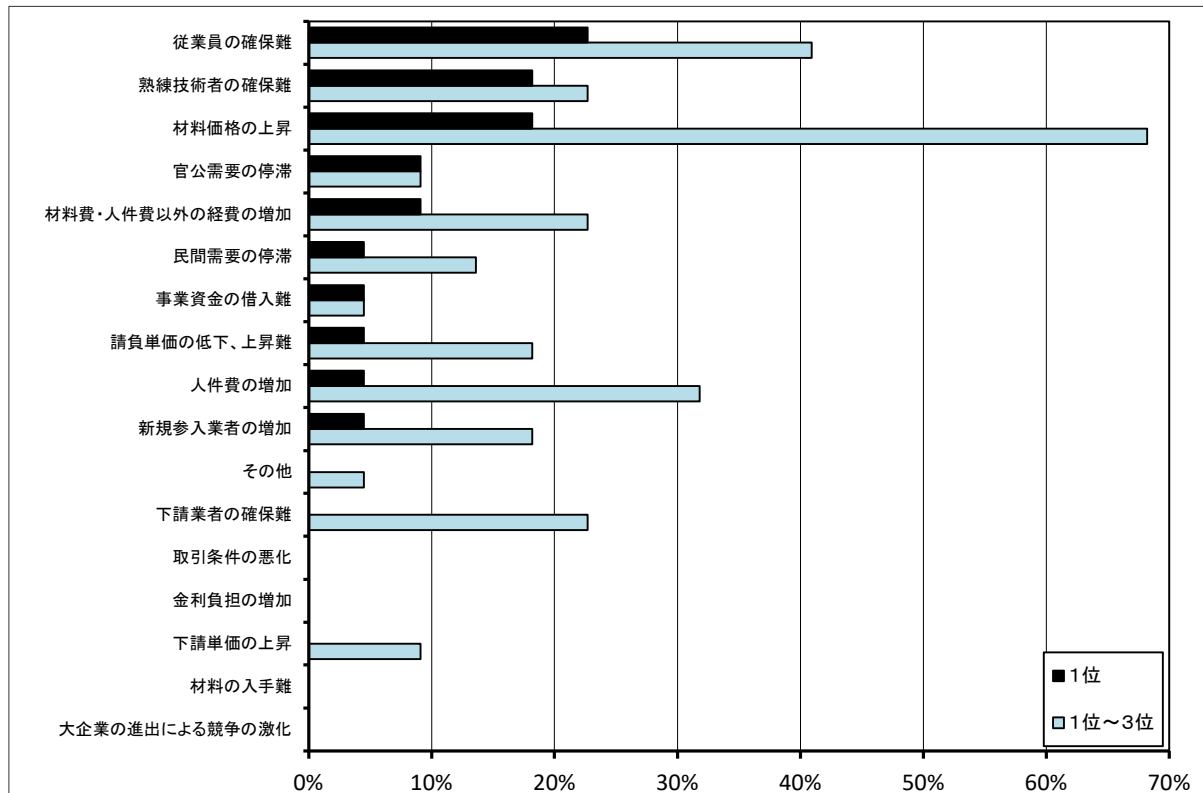


※ 計画については、調査実施時期を基準に翌期の予定を記入しているため、グラフに期の差が生じる。

③ 経営上の問題点

※ グラフ中の項目から1位～3位まで挙げられた問題点を1位及び1位～3位毎に集計を行った。

「従業員の確保難」「熟練技術者の確保難」「材料価格の上昇」が上位を占めた。



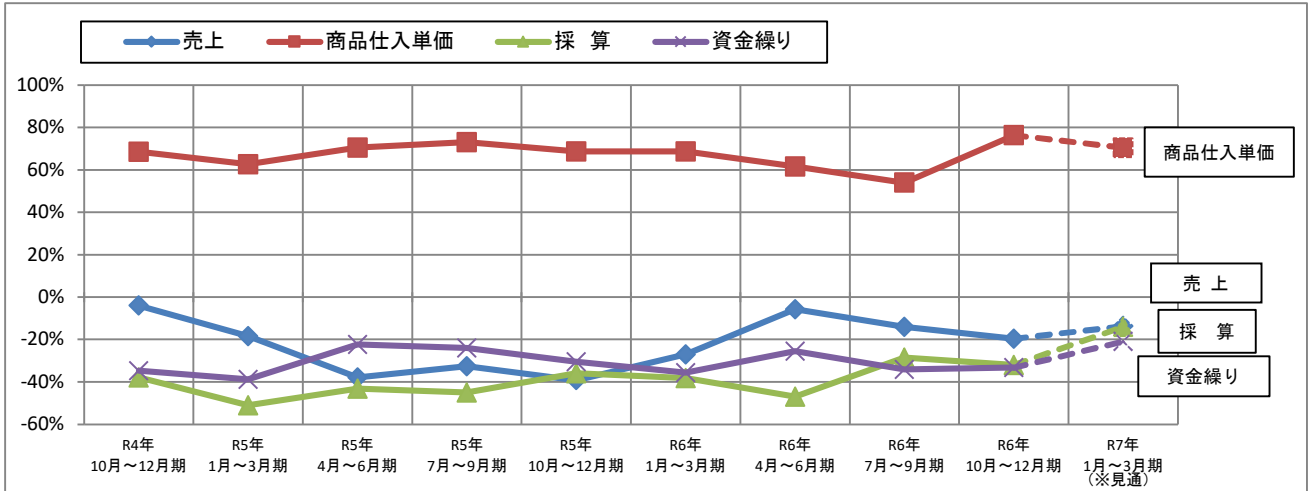
3. 各業種の景況

(3) 小売業

① 小売業 D・I 値 (景気動向指数)の推移 ー前年同期比ー

小売業	R5年		R6年				R7年
	10月～12月期	1月～3月期	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期
売上	▲ 39.2%	▲ 27.1%	▲ 5.7%	▲ 14.0%	▲ 19.6%	▲ 13.7%	▲ 13.7%
商品仕入単価	68.7%	68.7%	61.6%	54.0%	76.4%	70.5%	70.5%
採算	▲ 36.0%	▲ 38.3%	▲ 47.0%	▲ 28.6%	▲ 32.0%	▲ 14.0%	▲ 14.0%
資金繰り	▲ 30.6%	▲ 35.6%	▲ 25.5%	▲ 34.1%	▲ 33.3%	▲ 20.9%	▲ 20.9%

来期予測



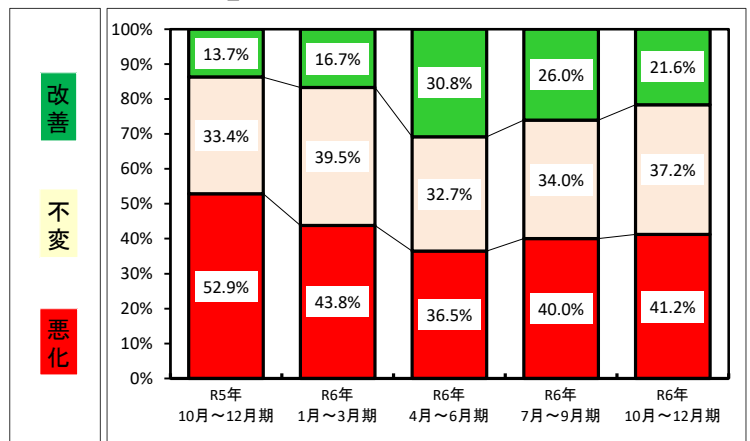
※『売上』の状況 前年同期比 (D・I 値)

売上 …… ▲ 19.6 ポイント
(前期比 5.6 ポイント悪化)

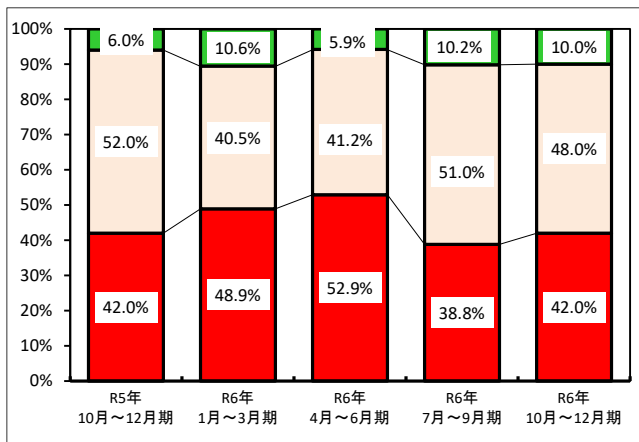
仕入単価 …… 76.4 ポイント
(前期比 22.4 ポイント悪化)

採算 …… ▲ 32.0 ポイント
(前期比 3.4 ポイント悪化)

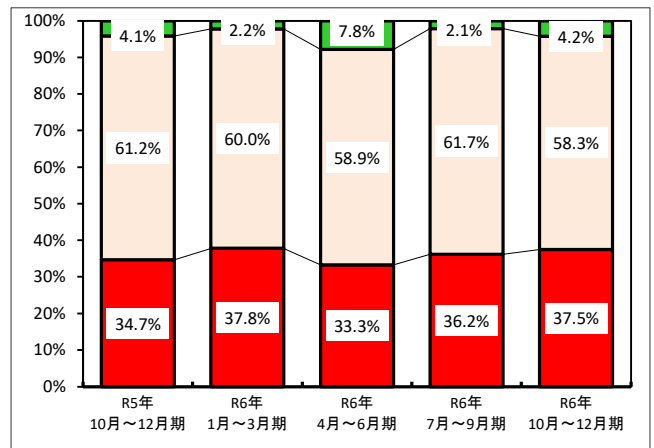
資金繰り …… ▲ 33.3 ポイント
(前期比 0.8 ポイント改善)



※『採算』の状況 前年同期比 (D・I 値)



※『資金繰り』の状況 前年同期比 (D・I 値)



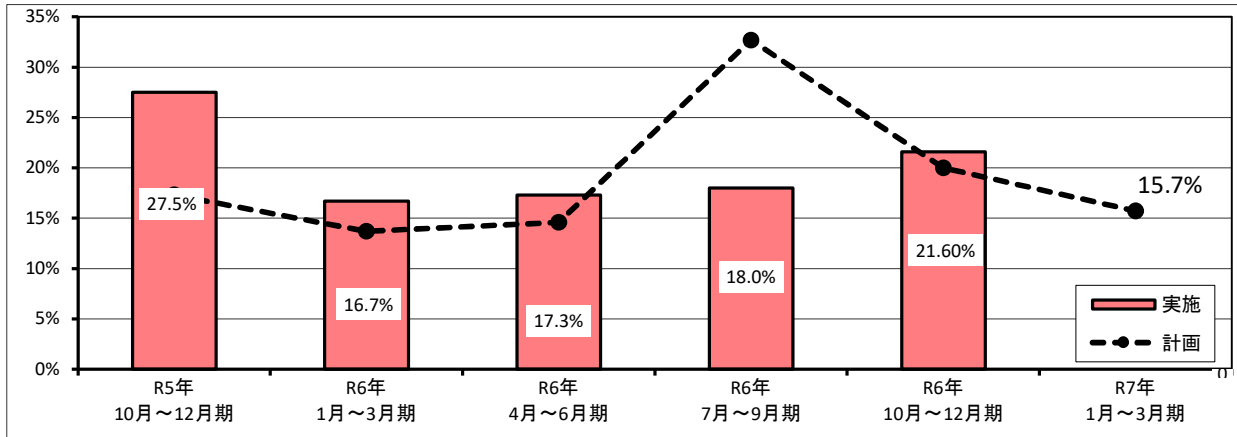
3. 各業種の景況

(3) 小売業

② 設備投資の状況(当期中に行った設備投資の実施状況と来期の実施予定を集計)

設備投資の実施状況は21.6%（前期比3.6ポイントの増加）であった。

小売業	R5年		R6年				(計画)
	10月～12月期	1月～3月期	4月～6月期	4月～6月期	10月～12月期	R7年	
土地	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	1月～3月期	
車両・運搬具	7.1%	37.5%	22.2%	11.1%	0.0%	25.0%	
販売設備	42.9%	37.5%	33.3%	22.2%	36.4%	50.0%	
設備投資の実施	27.5%	16.7%	17.3%	18.0%	21.6%	37.5%	
						15.7%	

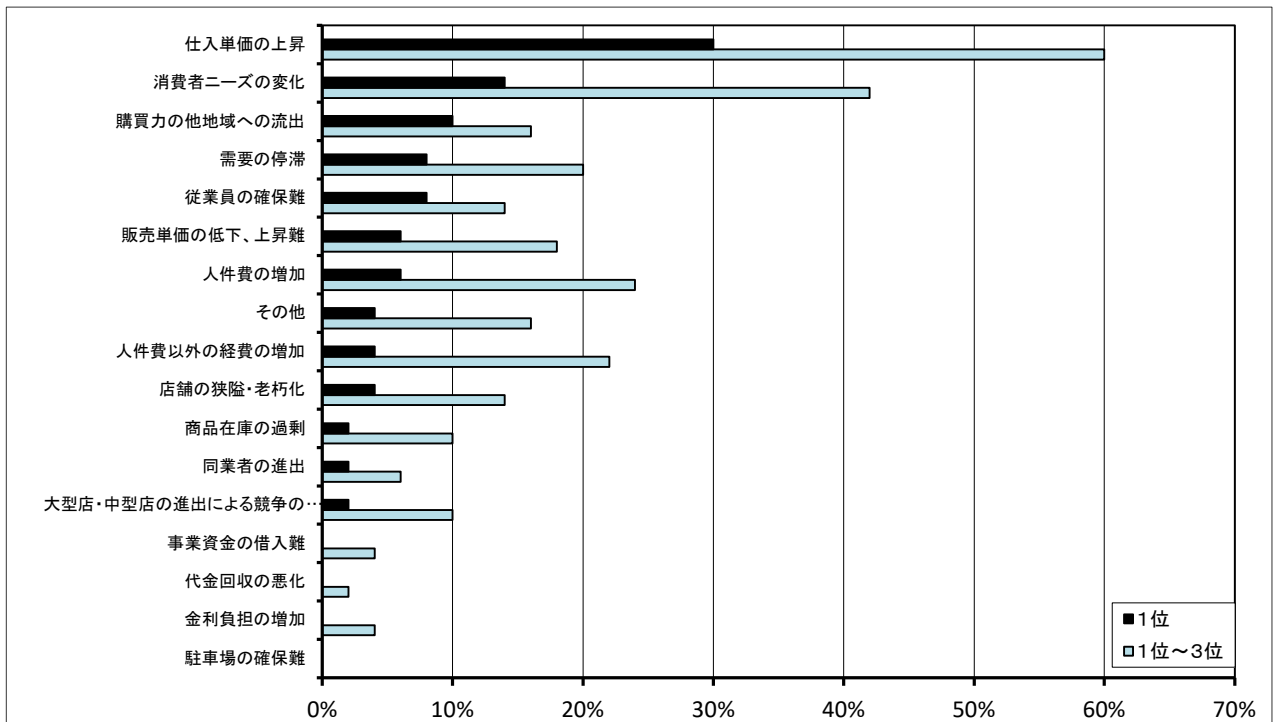


※ 計画については、調査実施時期を基準に翌期の予定を記入しているため、グラフに期の差が生じる。

③ 経営上の問題点

※グラフ中の項目から1位～3位まで挙げられた問題点を1位及び1位～3位毎に集計を行った。

「仕入単価の上昇」「消費者ニーズの変化」「購買力の他地域への流出」が上位となった。

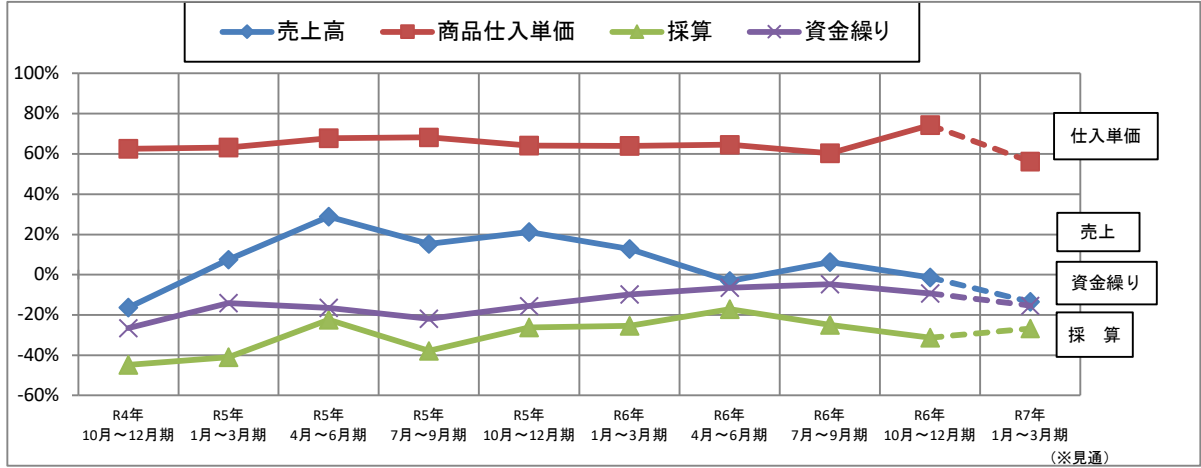


3. 各業種の景況

(4) サービス業

① サービス業 D・I 値 (景気動向指数)の推移 ー前年同期比ー

サービス業	R5年		R6年					来期予測
	10月～12月期	1月～3月期	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	10月～12月期	10月～12月期	R7年 1月～3月期
売上	21.2%	12.7%	▲3.1%	6.2%	▲1.4%	▲13.5%		
仕入単価	64.0%	63.9%	64.5%	60.3%	74.3%	56.1%		
採算	▲26.1%	▲25.4%	▲17.2%	▲25.0%	▲31.3%	▲26.8%		
資金繰り	▲15.6%	▲9.8%	▲6.4%	▲4.8%	▲9.3%	▲15.4%		



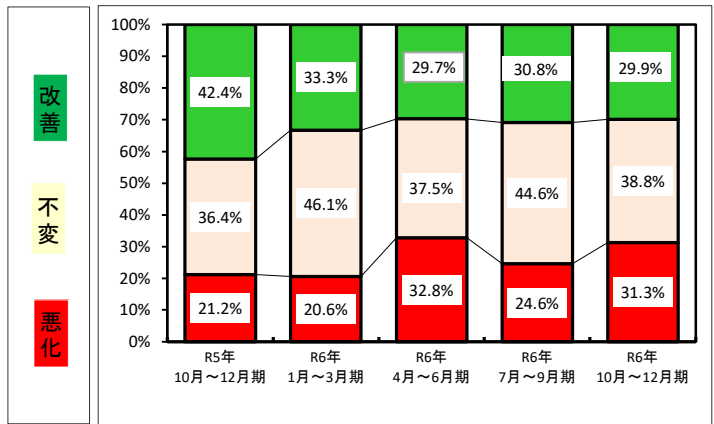
※『売上(収入)』の状況 前年同期比 (D・I 値)

売上・・・ ▲1.4 ポイント
(前期比 7.6 ポイント悪化)

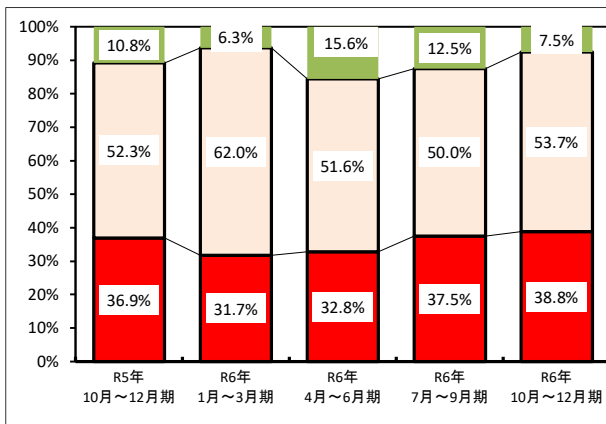
仕入単価・・・ 74.3 ポイント
(前期比 14.0 ポイント悪化)

採算・・・ ▲31.3 ポイント
(前期比 6.3 ポイント悪化)

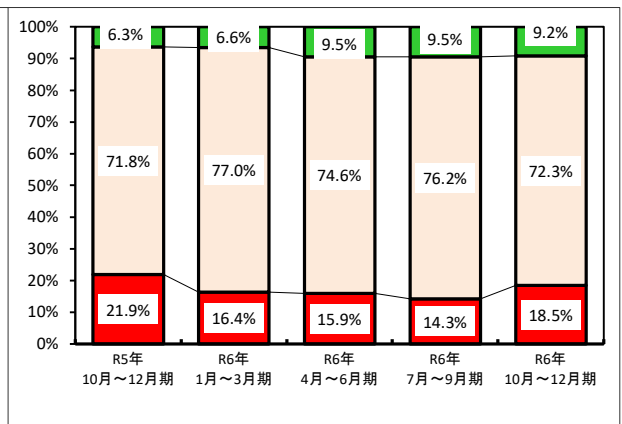
資金繰り・・・ ▲9.3 ポイント
(前期比 4.5 ポイント悪化)



※『採算』の状況 前年同期比 (D・I 値)



※『資金繰り』の状況 前年同期比 (D・I 値)



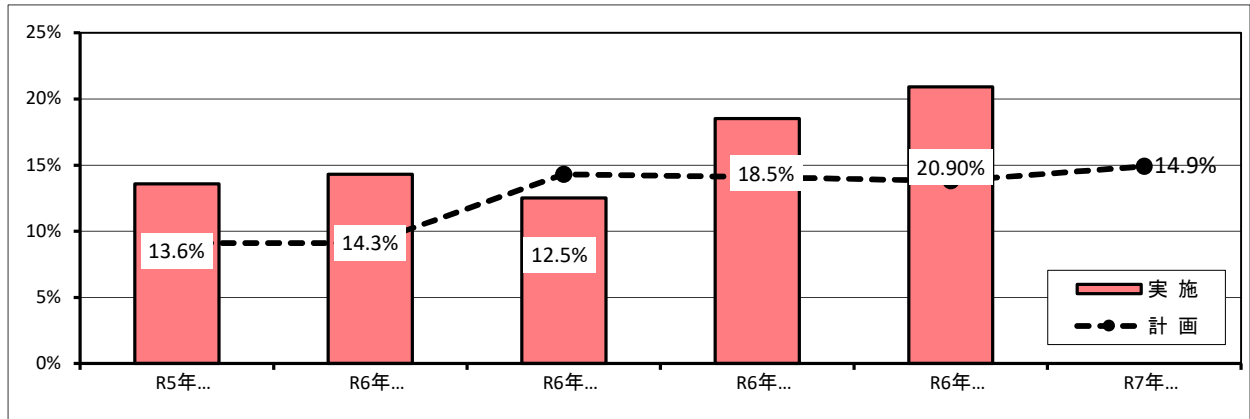
3. 各業種の景況

(4) サービス業

② 設備投資の状況(当期中に行った設備投資の実施状況と来期の実施予定を集計)

設備投資の実施状況は20.9% (前期比2.4ポイントの増加) であった。

サービス業	R5年	R6年				(計画) R7年
	10月～12月期	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期
土地	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	21.4%	10.0%
車両・運搬具	0.0%	33.3%	12.5%	25.0%	7.1%	10.0%
サービス設備	11.1%	33.3%	0.0%	50.0%	57.1%	40.0%
設備投資の実施	13.6%	14.3%	12.5%	18.5%	20.9%	14.9%

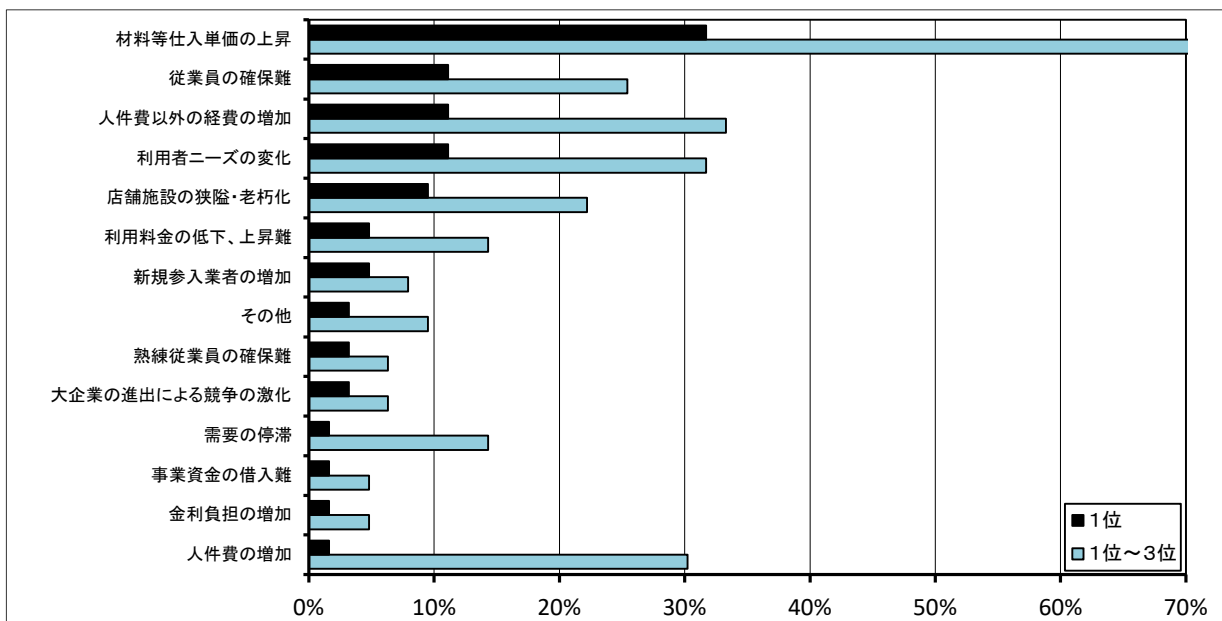


※ 計画については、調査実施時期を基準に翌期の予定を記入しているため、グラフに期の差が生じる。

③ 経営上の問題点

※ グラフ中の項目から1位～3位まで挙げられた問題点を1位及び1位～3位毎に集計を行った。

「材料等仕入単価の上昇」「従業員の確保難」「人件費以外の経費の増加」等が上位となった。



京都府商工会連合会

600-8009 京都市下京区函谷鉾町78番地

京都経済センター 3F311号室

TEL : 075-205-5418

FAX : 075-343-0373

E-mail : office@kyoto-fsci.or.jp